

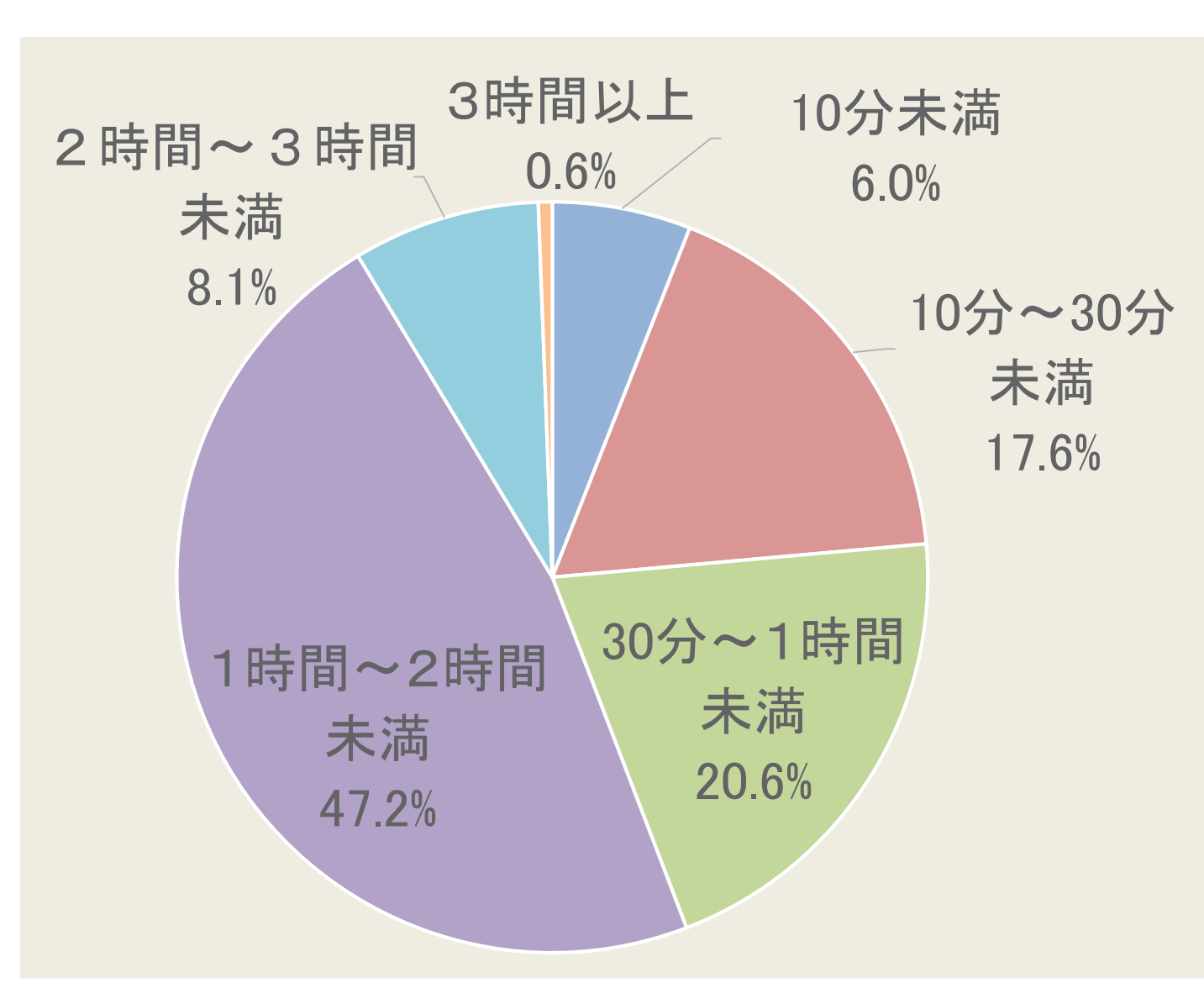
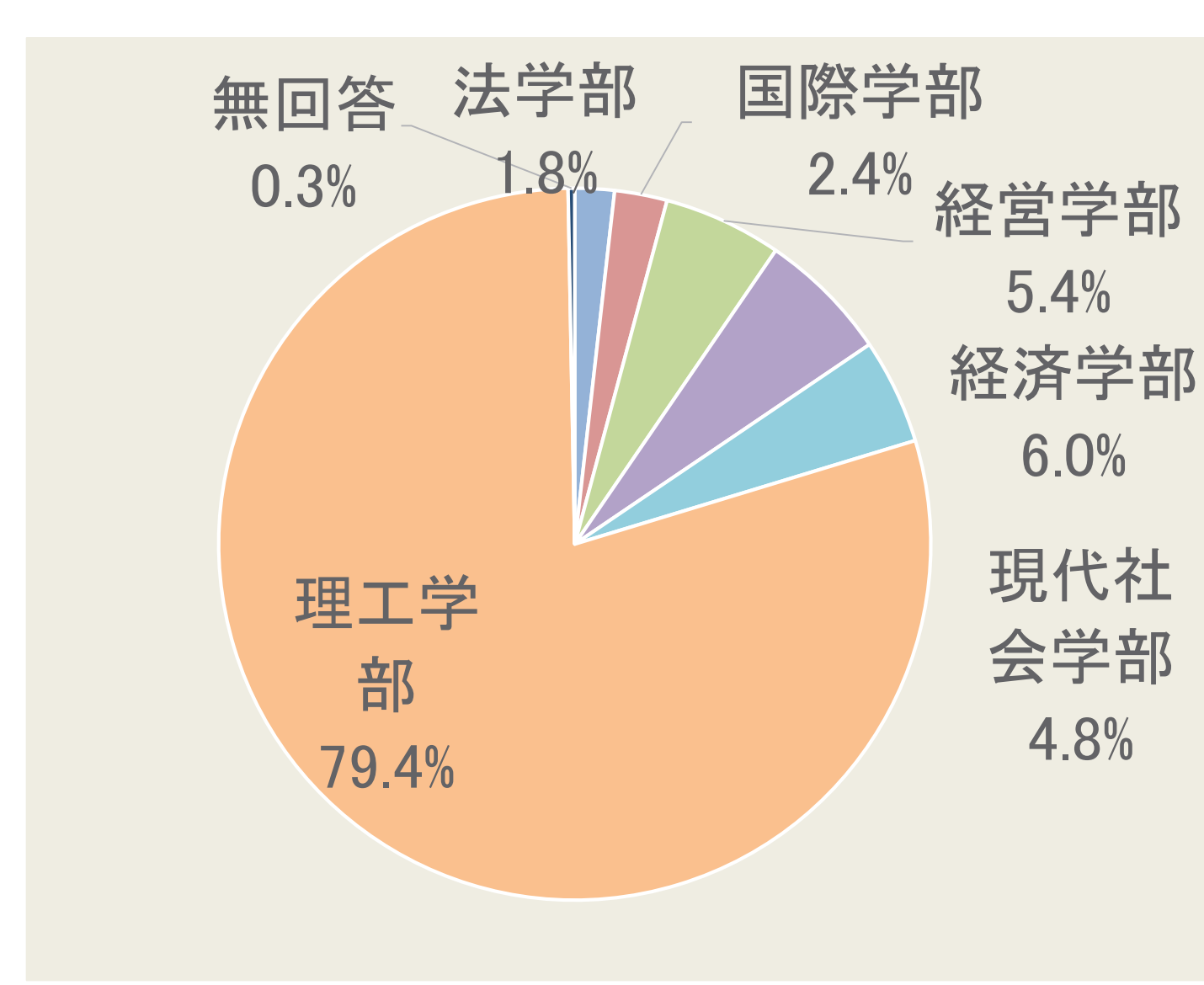
# コンパクトモビリティの可能性についてのアンケート調査（1）

## 1. 目的

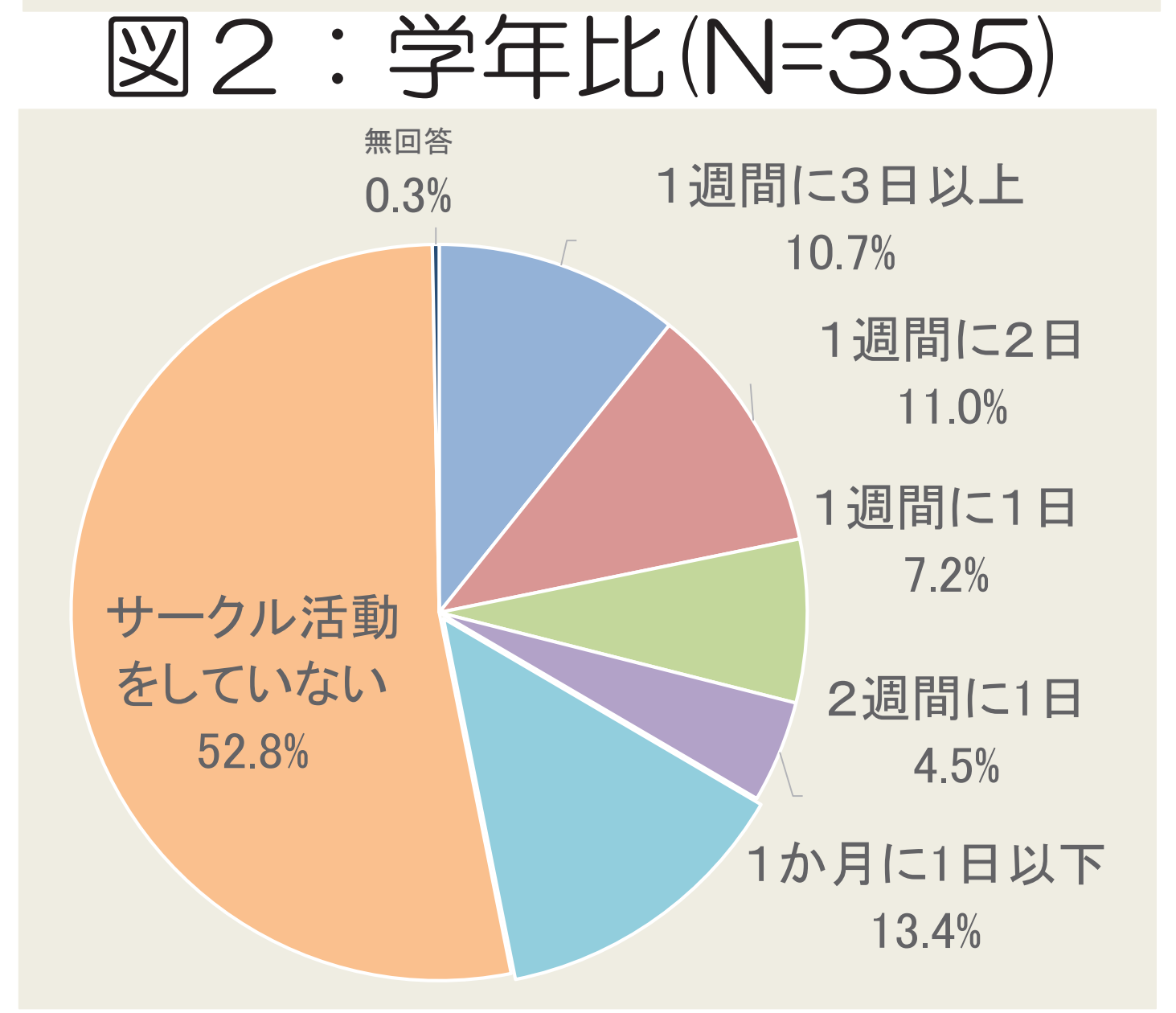
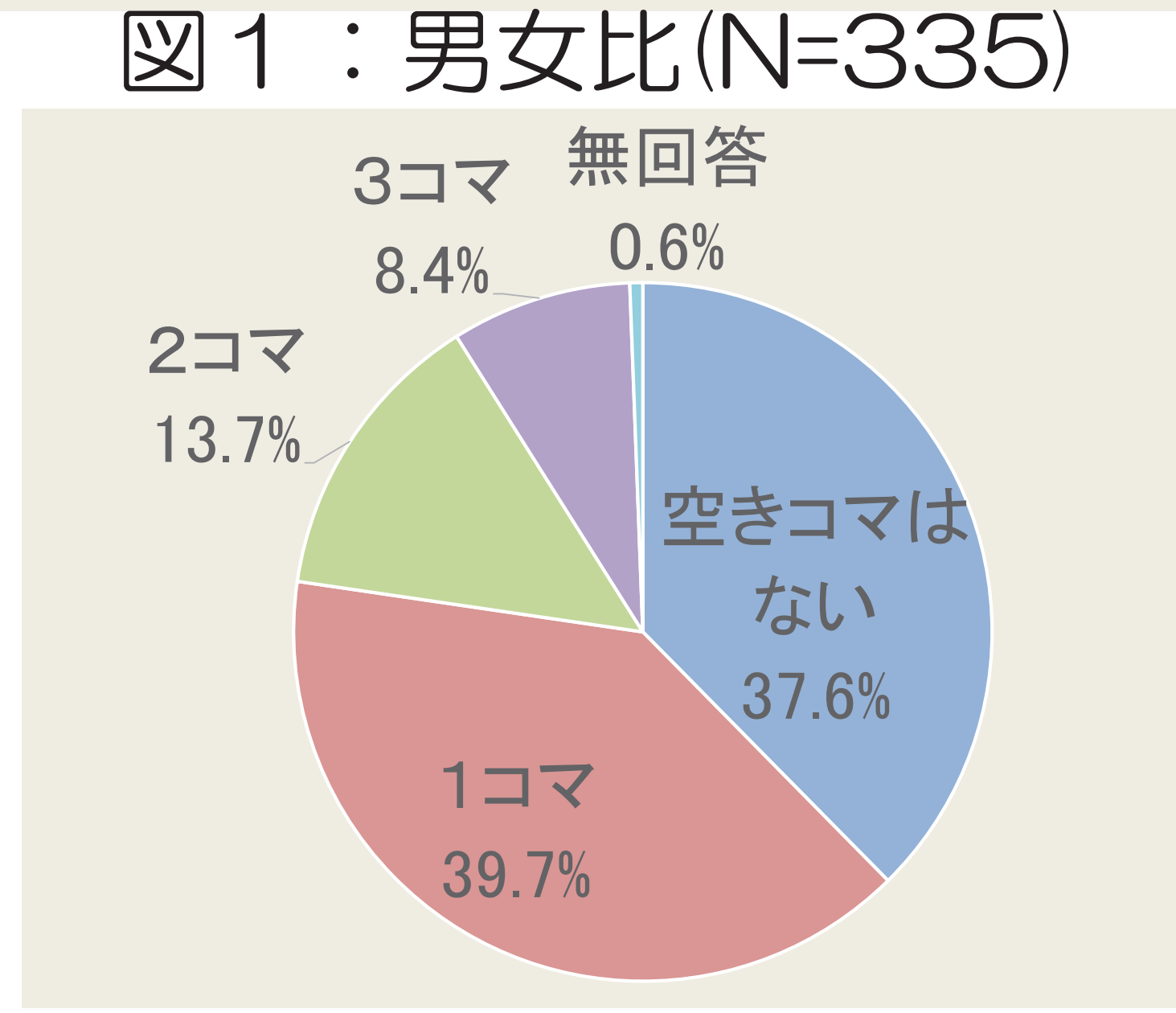
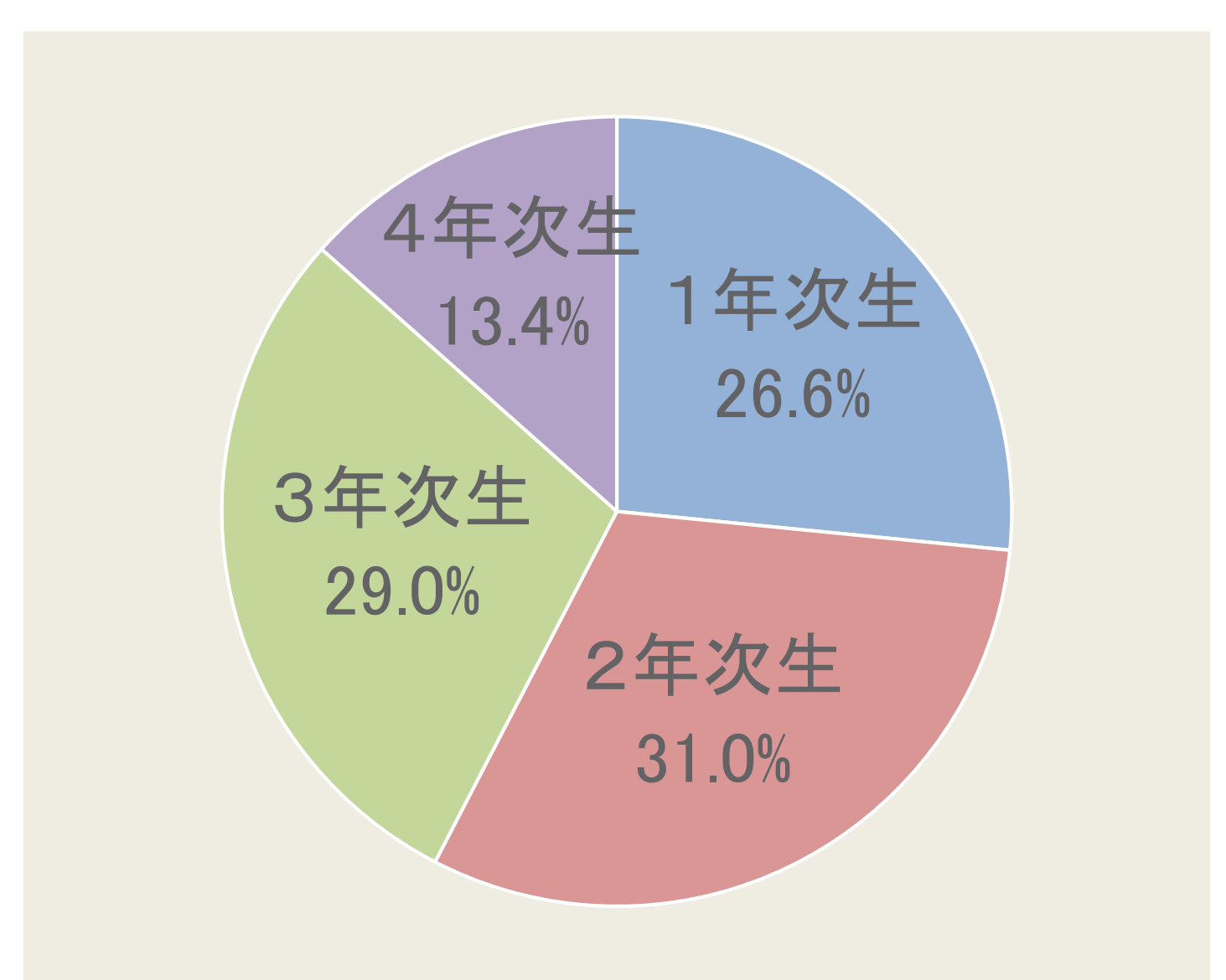
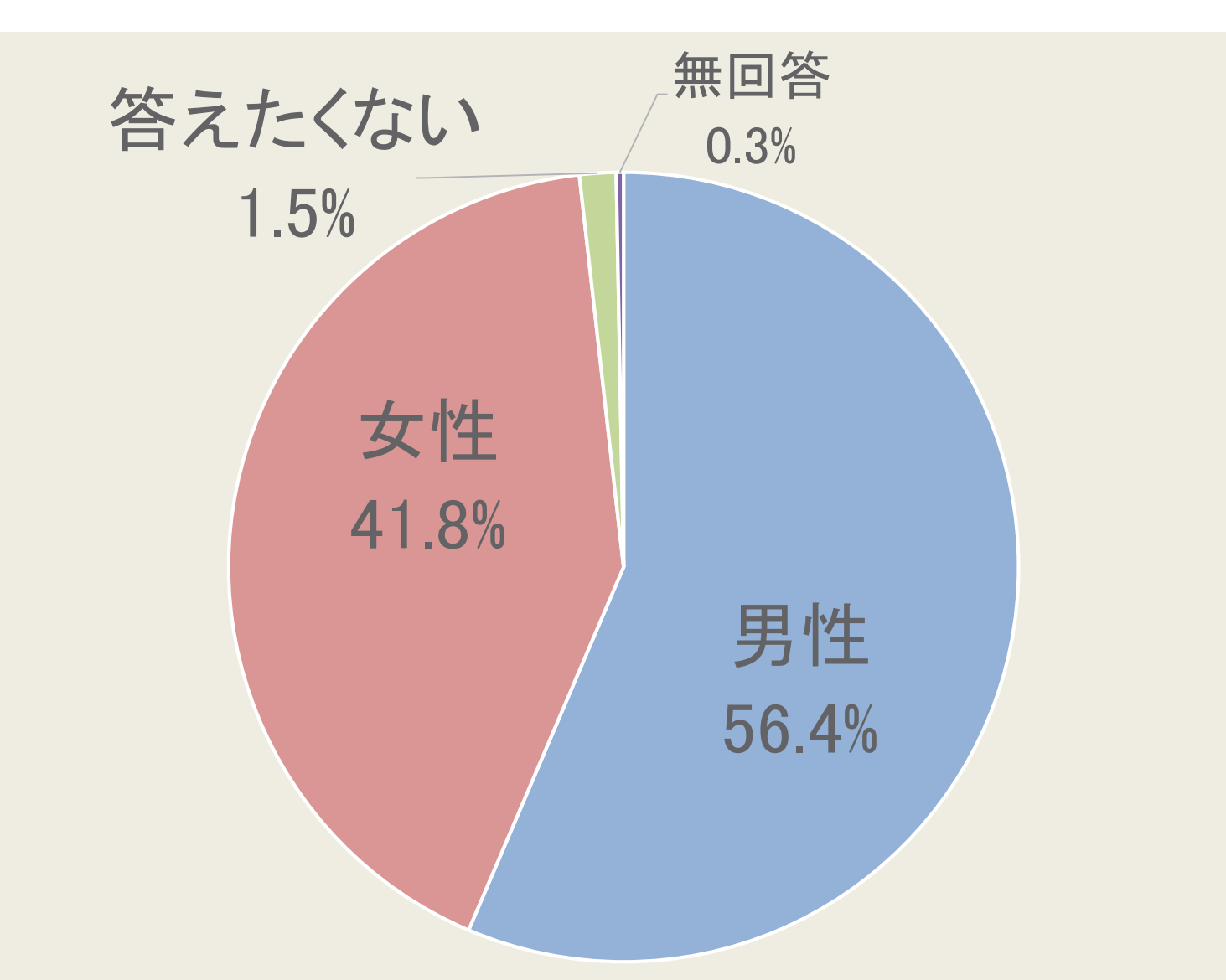
寝屋川キャンパスを拠点とするコンパクトモビリティの実現可能性を探るうえで、基本的情報を得るため、摂南大学に在籍中の皆様に大学での生活およびコンパクトモビリティに対する意識などの調査を実施し、実現可能性を検討しました。

### ● アンケート方法

対象者：摂南大学寝屋川キャンパス在学生  
期間：2024年5月29日～2024年6月25日  
方法：MS forms Webアンケート 回収総数：335票



## 2. 基本属性



- ・図1: 男女比は約6:4で大きな差はありませんでした。
- ・図2: 比較的均等ですが、4年生のデータが少なくなっています。
- ・図3: 理工学部が約8割を占めており、データの偏りがあります。
- ・図4: 回答者の約2人に1人が1時間～2時間未満かけて通学しているという結果が得られました。
- ・図5: 空きコマは1コマ以下が約8割を占めています。また、空きコマなしについては、授業が多く詰まっている場合とほとんど授業がない場合があると考えられます。
- ・図6: 回答者の半数以上がサークルに所属していませんでした。

## 3. 寝屋川市内の飲食店の認知度

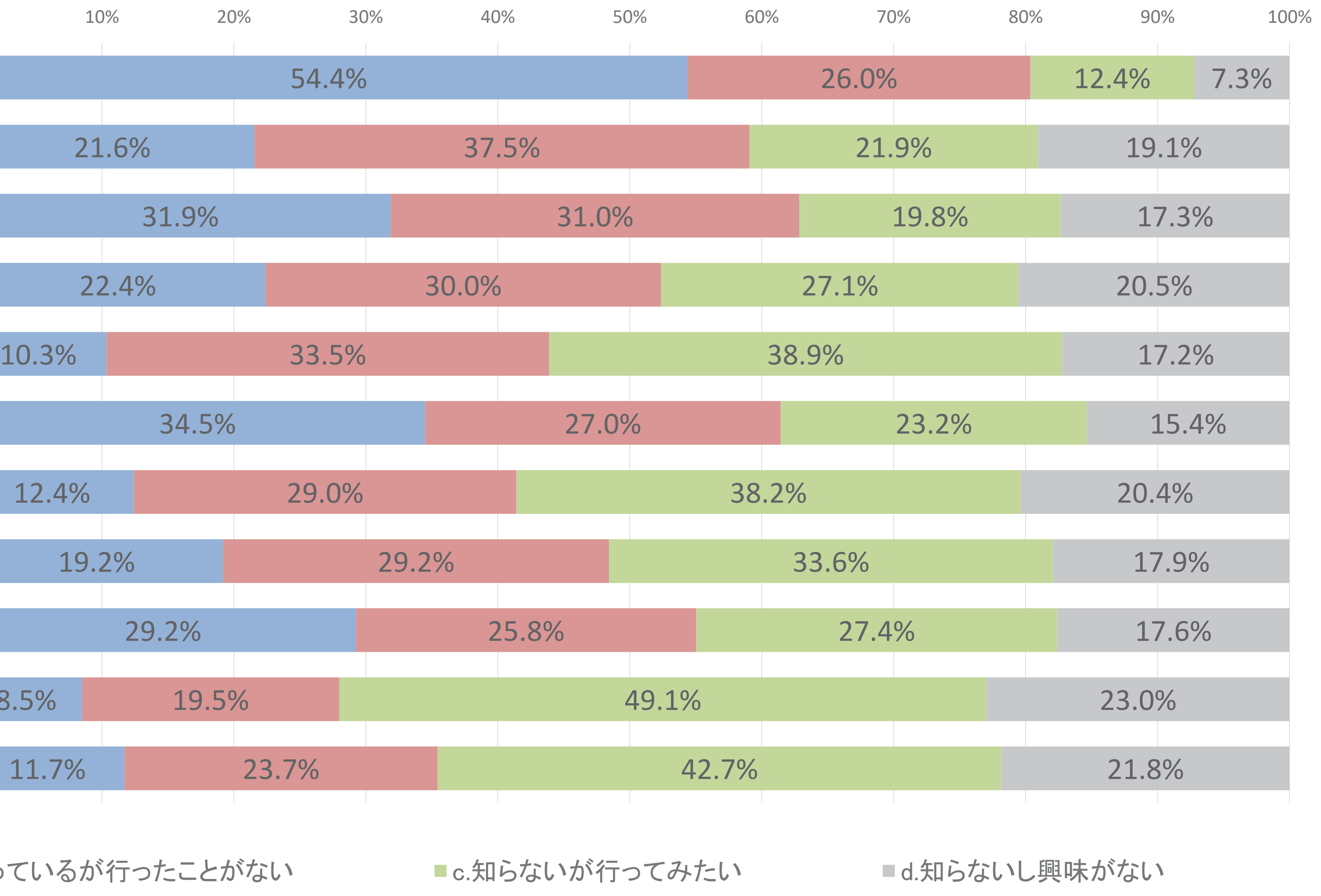
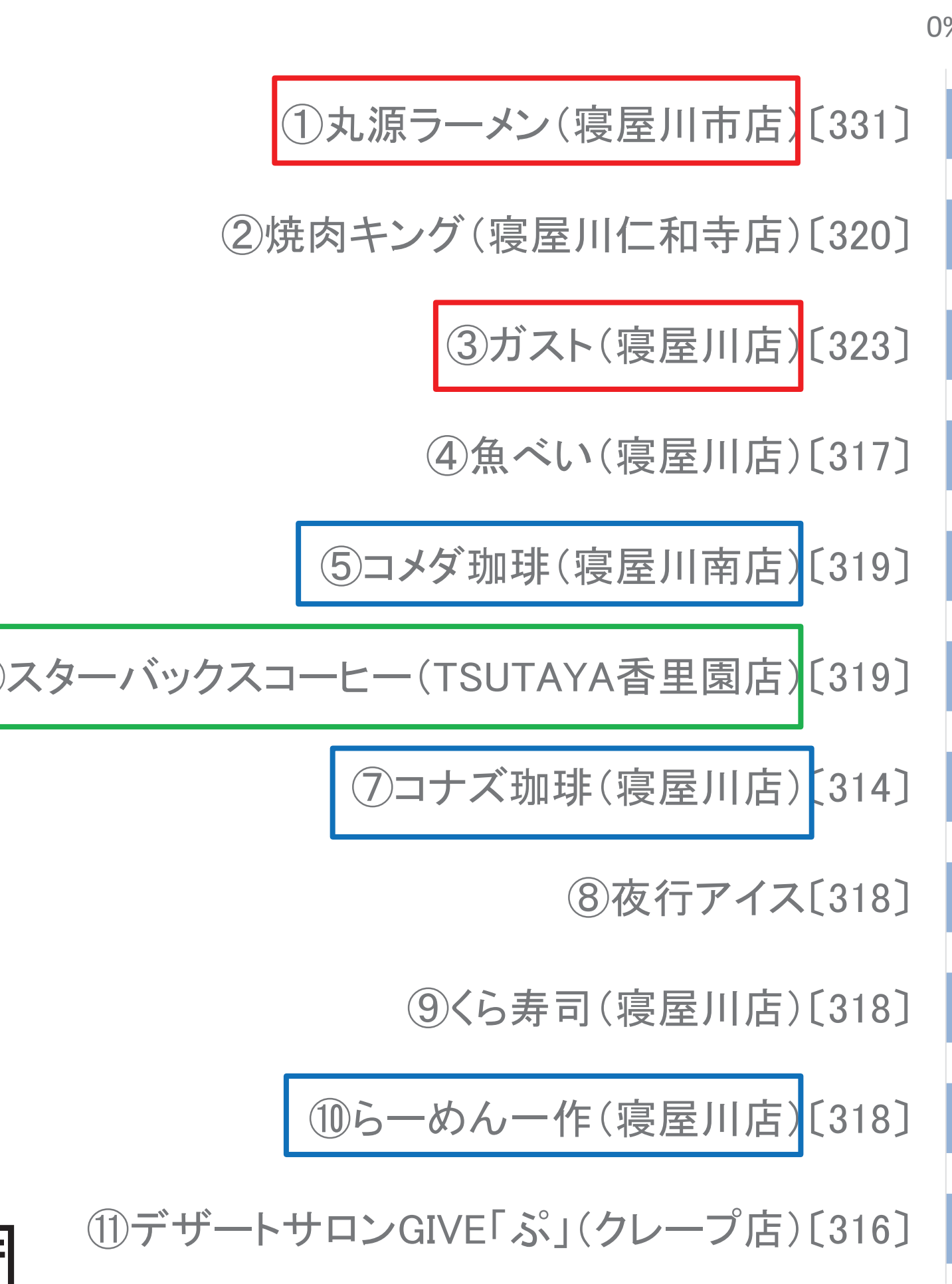
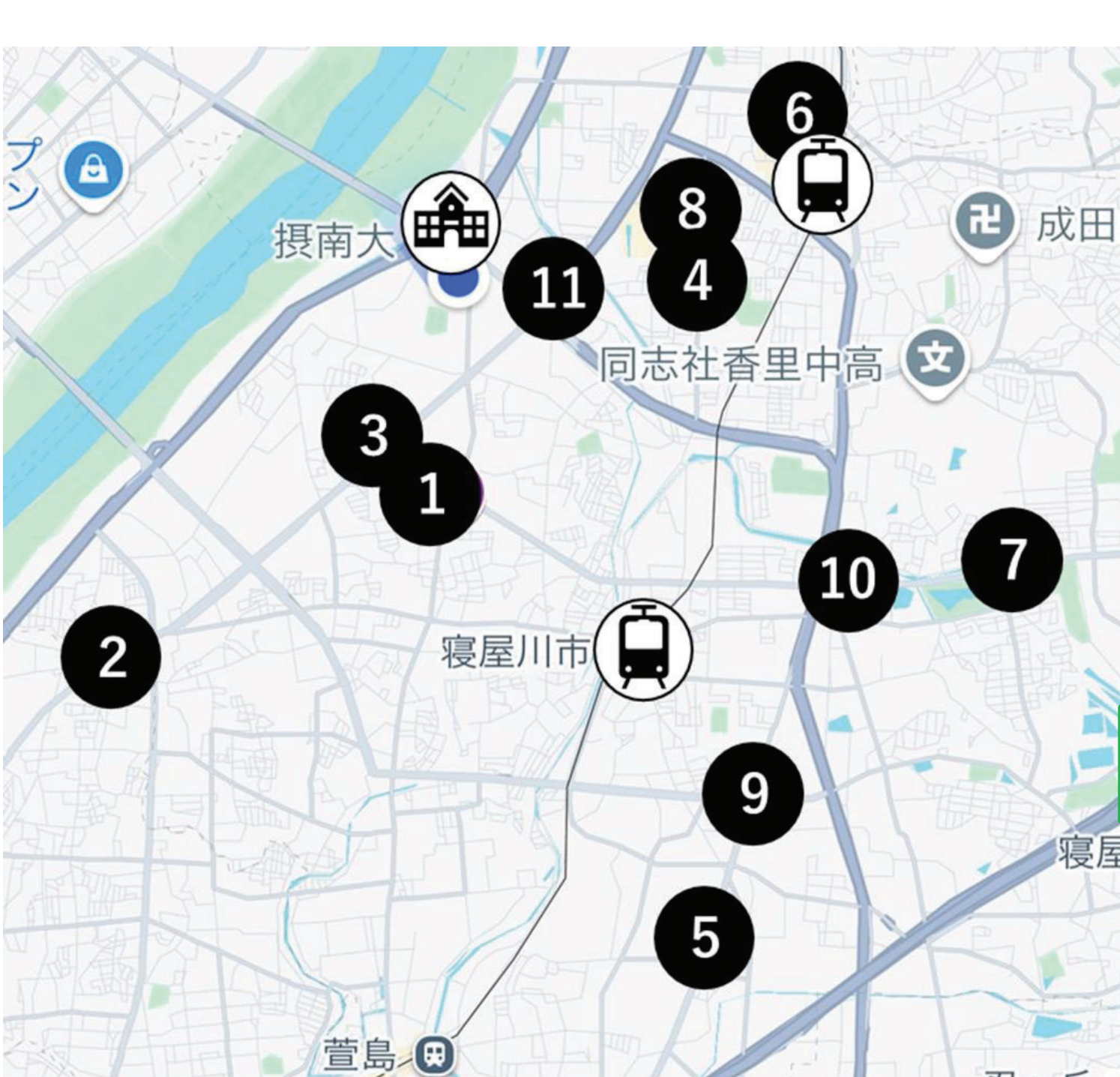


図7：グーグルマップ上での店舗位置

図8：寝屋川市の飲食店の認知度（N＝335）

摂南大学に通う学生に大学周辺、寝屋川市駅周辺の飲食店の認知度を調査しました(図7, 図8)。その結果**①丸源ラーメン**、**③ガスト**の認知度が高かったです。これは、寝屋川市駅から大学までの直通バスルートにある為だと考えます。また、**京阪線東側の飲食店認知度は全体的に低い**結果となりました。西側に学校がある為、東側へ行く機会が少ない為と考えます。

## 4. 大学周辺での外食費用

図9は大学周辺の飲食店などで食事する際に、昼食と夕食それぞれにかかる平均的な費用について調査した結果です。図9から分かるように昼食は**②500～1000円**(ピンク色の部分)が最も多く、夕食は**③1000～2000円**(緑色の部分)が最も多いことから、**昼食にかかる費用の方が約1000円以下と比較的に低く、夕食が約1000円以上と高い傾向になっている**ことが分かります。⑥の外食しない・分からないと選択した方が昼食・夕食合わせて86人おり、この人数はアンケートに答えた全体の約4分の1を占めていることから、大学周辺の施設の認知度が低かったり、利用しない方も少なくないのではないかと考えました。

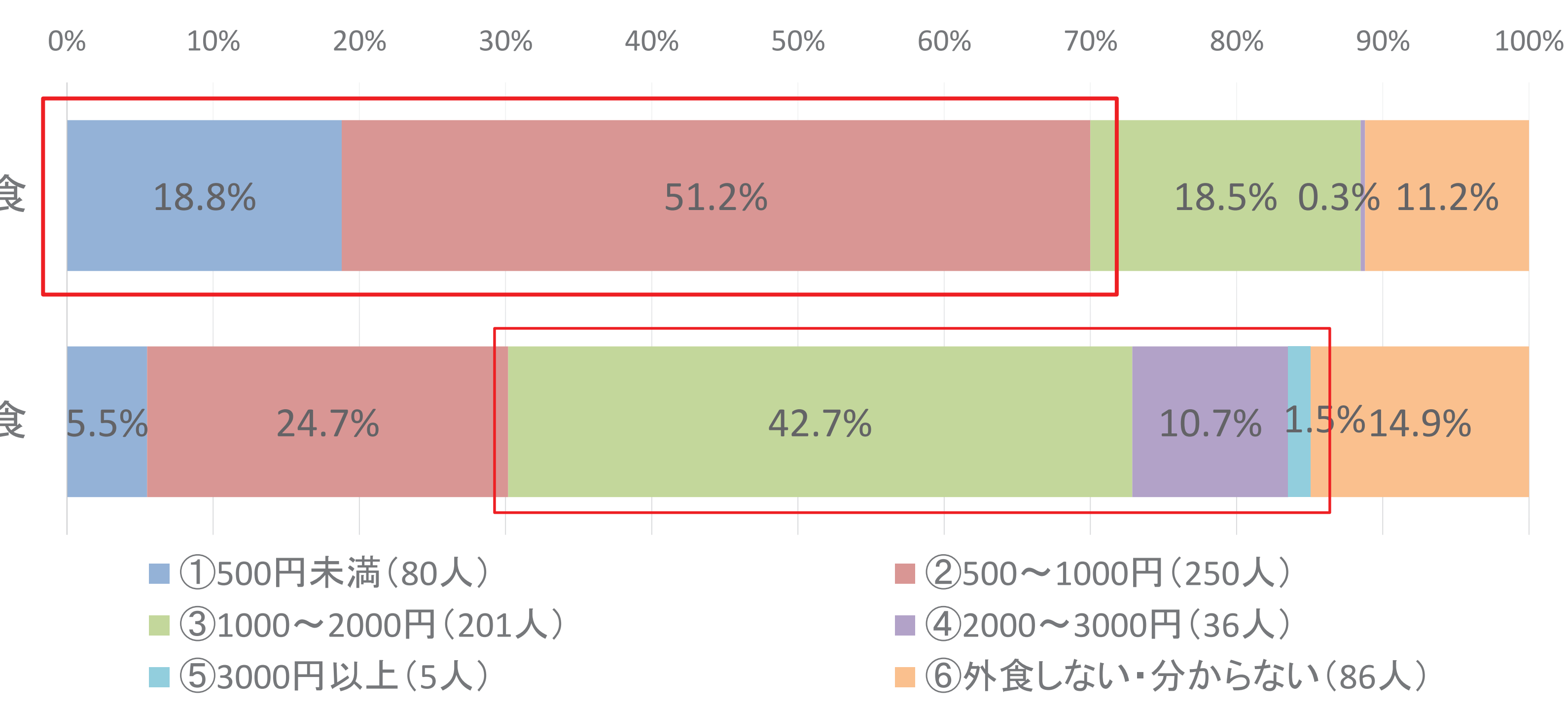


図9：昼食と夕食の平均的な費用(N=335)



# コンパクトモビリティの可能性についてのアンケート調査（2）

## 5. 放課後、空きコマについて

図10は、放課後や空きコマに大学周辺で過ごしたいと思う場所を男性と女性でクロス集計した結果です。

全体としてカフェ、カラオケ、ファミリーレストラン、ショッピングモールの指摘の割合が40%以上と高く、その内カフェとファミリーレストランは男女差が約20ptあり、女性が多くなっています。他はほとんど差はありませんが、ジムや温浴施設、サウナは男性が約15%と若干多くなっています。

図11は放課後や空きコマに大学周辺で過ごせる場所や施設の充実度と男性と女性でクロス集計を行った結果です。全体の結果より、充実していない人の割合（④と⑤の合計42.4%）が充実している人の割合（①と②の合計29.5%）に比べ、高いことがわかりました。また、男女の差でみると充実している人の割合は0.8ptとあまり差がみられませんでした。充実していない割合は女性のほうが男性より4.6ptと少し高くなっていることがわかりました。

## 6. 自転車の利用について

図12は1週間のうち、自転車をどのような目的で利用しているかと男性と女性でクロス集計を行った結果です。予想では男女の傾向に差が出ると考えていましたが、グラフより、男女の比率と全体の比率との差に大きな差はありませんでした。

図13は日常で自転車を利用するうえでの問題点を複数回答により集計した結果です。1番問題視されているのは天候に左右される(62.4%)という点でした。次いで問題視されているのは、交通量の多さ(46.0%)、さらに次いで道路の狭さ(45.4%)で、利用場所に依存する問題であることがわかりました。

図14はレンタルサイクル(赤チャリ)における問題点を複数回答により集計した結果です。利用したことがない、問題点がないという回答が多く、挙げられている問題点の総数は少なくはなっていますが、お尻が痛い(10.4%)、音がうるさい(9.6%)、タイヤの空気が少ない(7.8%)など多様な問題が読み取れました。

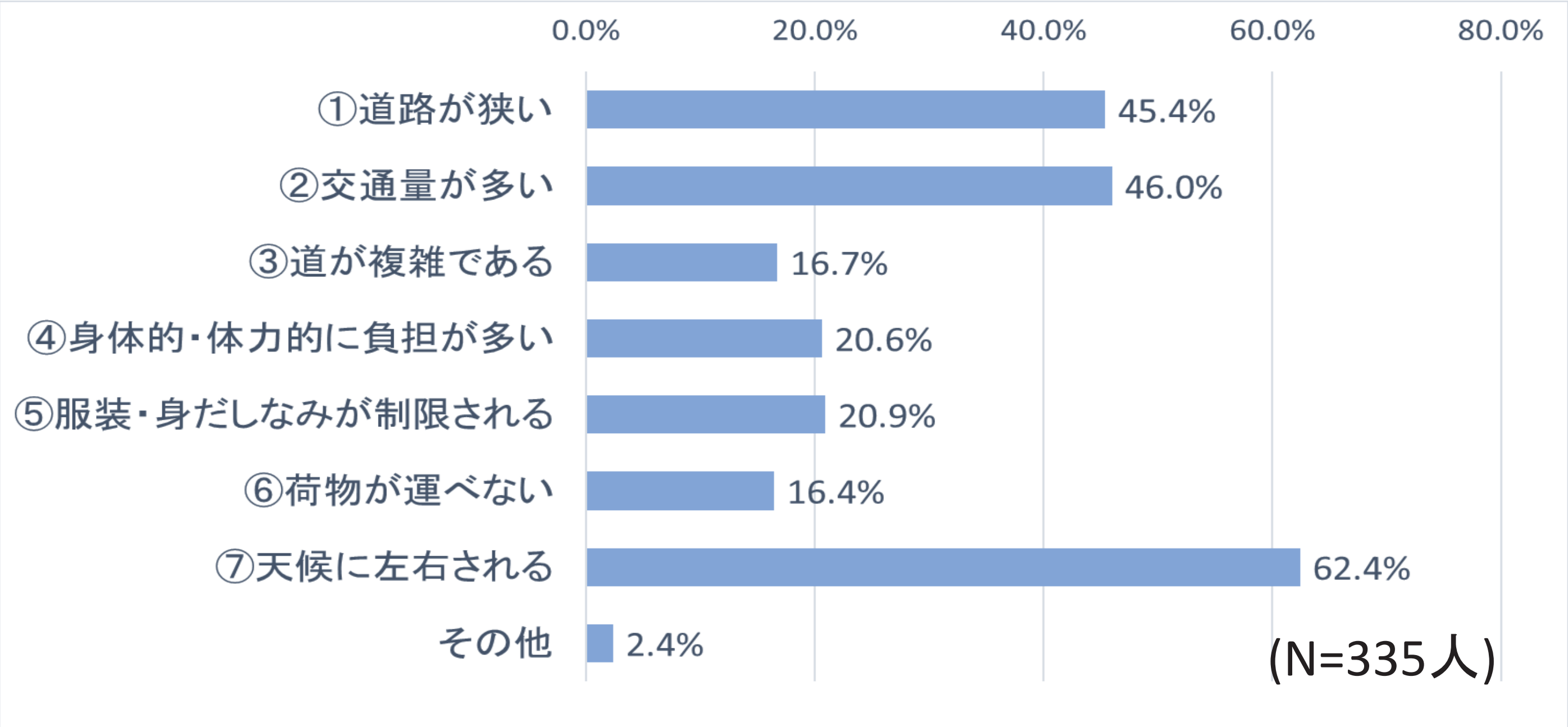


図13 日常の自転車利用における問題点

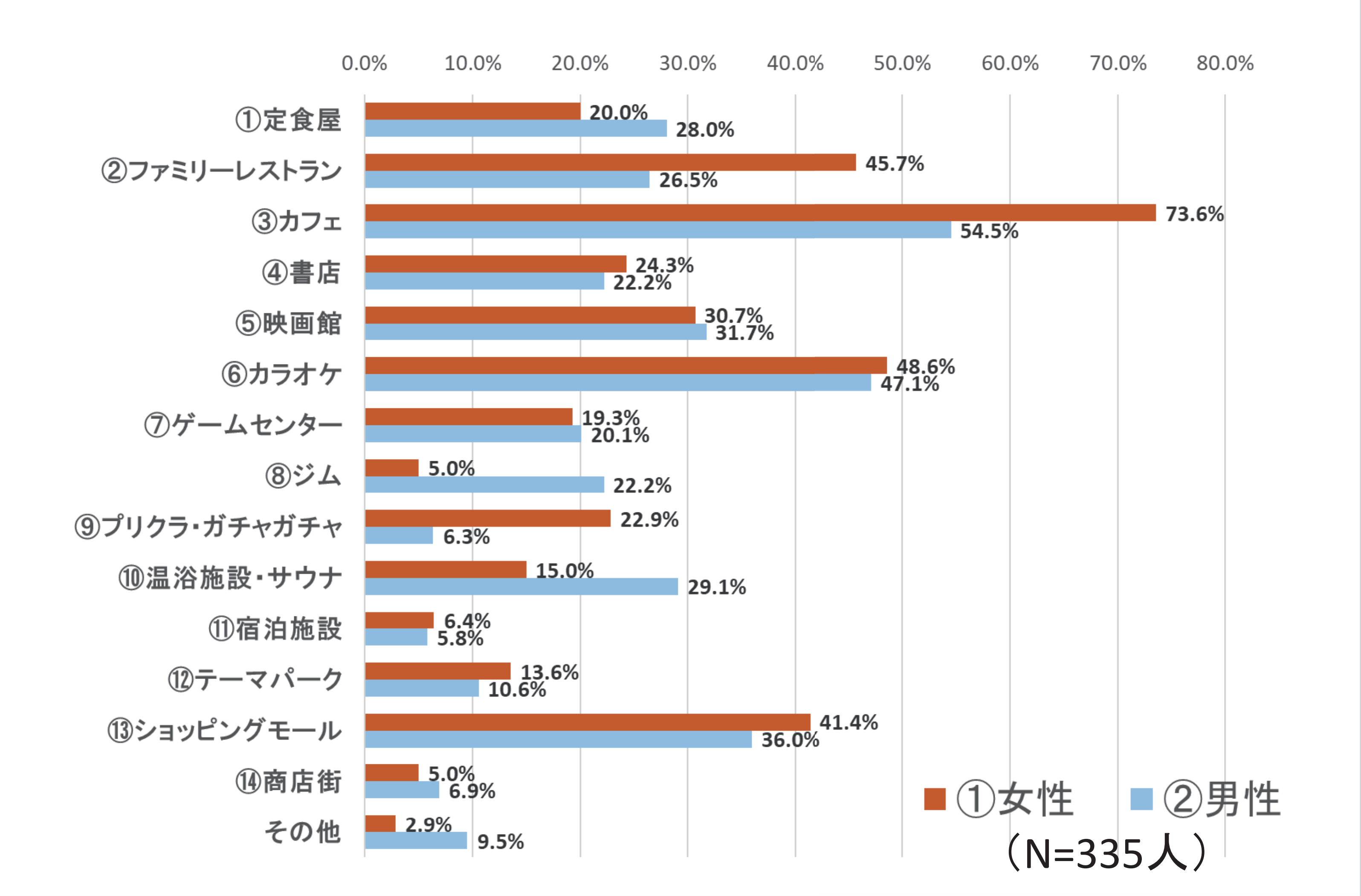


図10 放課後や空きコマに大学周辺で過ごしたい場所

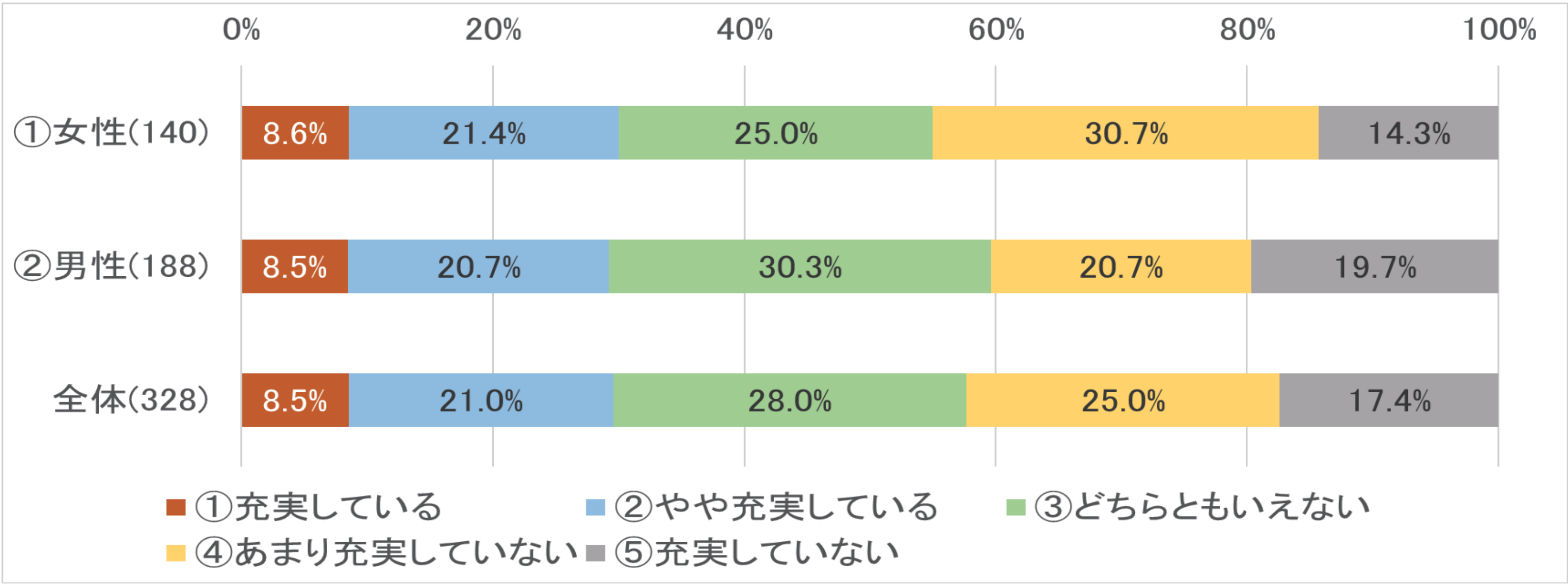


図11 放課後や空きコマに大学周辺で過ごせる場所や施設の充実度 ( ) ; 回答者数

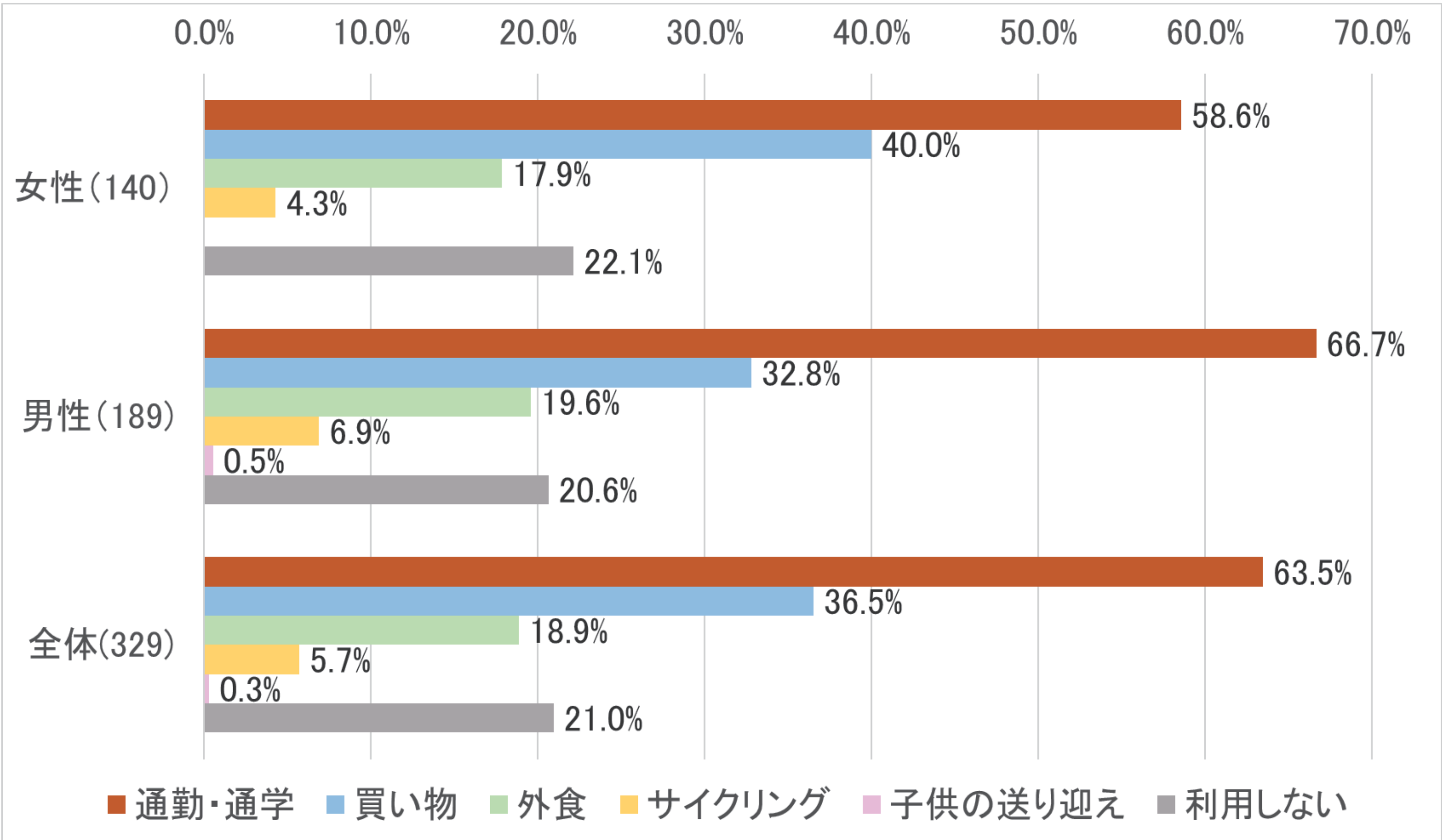


図12 自転車の利用目的 ( ) ; 回答者数

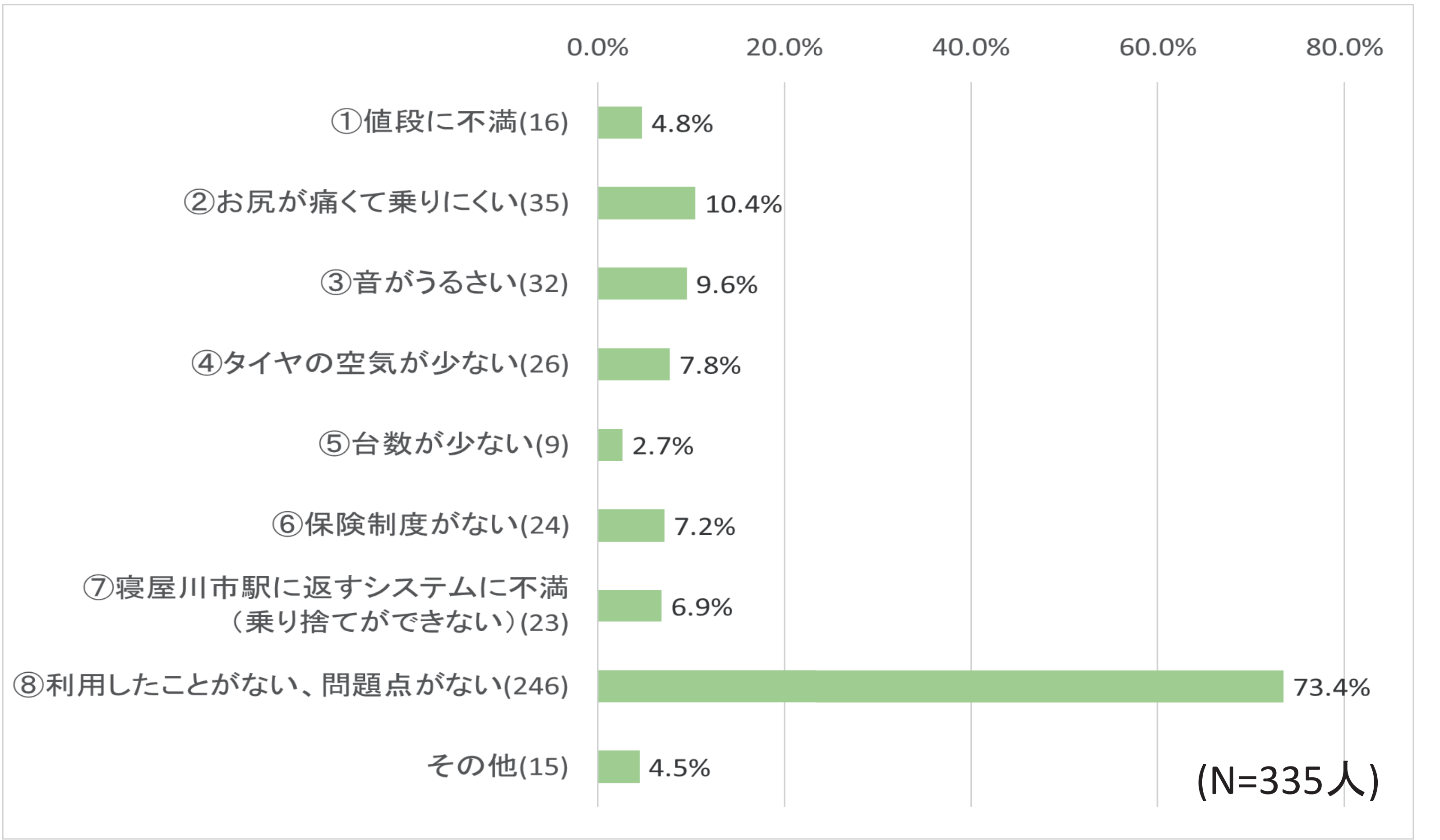


図14 レンタルサイクルにおける問題点



# コンパクトモビリティの可能性についてのアンケート調査（3）

## 7. コンパクトモビリティの認知

図15より、コンパクトモビリティを知っている人は、56%であり、**半数以上の人から認知**されています。よって、コンパクトモビリティの導入により、さらに**認知度が高まり、利用者が増える**と予想することができます。

## 8. コンパクトモビリティの車種

図16より、電動キックボード・電動アシスト自転車・クロスバイク・ママチャリのコンパクトモビリティの車種の中で、最も利用意向が高い車種は電動アシスト自転車であることがわかりました。そして、**最も利用意向の低い車種がママチャリ**であることがわかりました。その結果から、**漕ぐ力と疲れが少なく楽な電動アシスト自転車**がより**利用意向が高い傾向にある**ことが考えられます。

## 9. コンパクトモビリティ利用時の金額許容

図17より、バス便のあるルートは、①100円②150円③200円と比較的安価を希望する人の割合が多いことがわかりました。また、**バス便のないルートはバス便のあるルートに比べると300円以上払っても良いという人の割合が多い**ことがわかりました。結果より、バス便のないルートでは交通手段がないためコンパクトモビリティに許容できる金額が大きいのではないかと考えました。

## 10. 移動時間の許容範囲

図18より、20分未満(38.7%)まで許容できる人が1番多いことがわかりました。さらに④30分未満～⑥1時間以上の人まで含めると69.4%という半数以上の人 が20分未満での移動時間は許容できることがわかります。そのため、この結果からポートを設置する際は最低でも**ポート間を20分未満で移動できる距離に設置**することが適切であると考えられます。

## 11. コンパクトモビリティの利用意向

図19より、コンパクトモビリティを利用したいと考えている人が半数であると言えます。さらに、図20より、**空きコマの充実度が低い人で利用すると回答した人の割合は49.4%**で利用しないと回答した人と比べると非常に高いと言えます。よって、コンパクトモビリティを導入することで、空きコマの行動範囲が広まり、充実度も高まると考えられます。したがって、コンパクトモビリティの**利用者は一定数確保**できると考えます。

## 12. 調査のまとめ

空きコマを活用したいと考える学生が一定おり、コンパクトモビリティの利用意向も5割あることから、導入すれば利用される可能性が高いと言えます。レンタルサイクルを利用しない学生や市外在住者の行動範囲を広げることができます。通学手段としての利用は少ないと予想できますが、大学周辺の飲食店・施設等をよりよく知るきっかけにもなり、教習所(香里園)等への交通手段としてもあればよいという意見がありました。利用料の面でも許容できるという割合が高く、少なくとも摂南大生の利用は期待できます！ぜひご検討をお願いいたします。

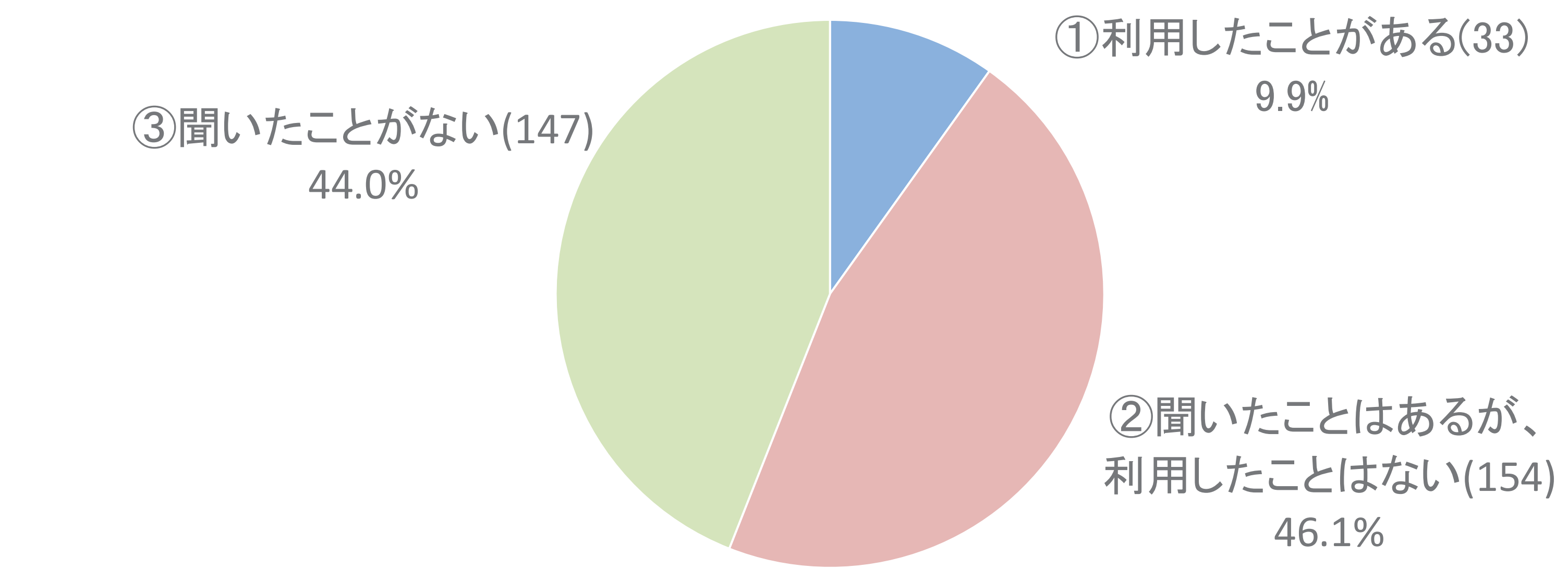


図15: コンパクトモビリティの認知度について

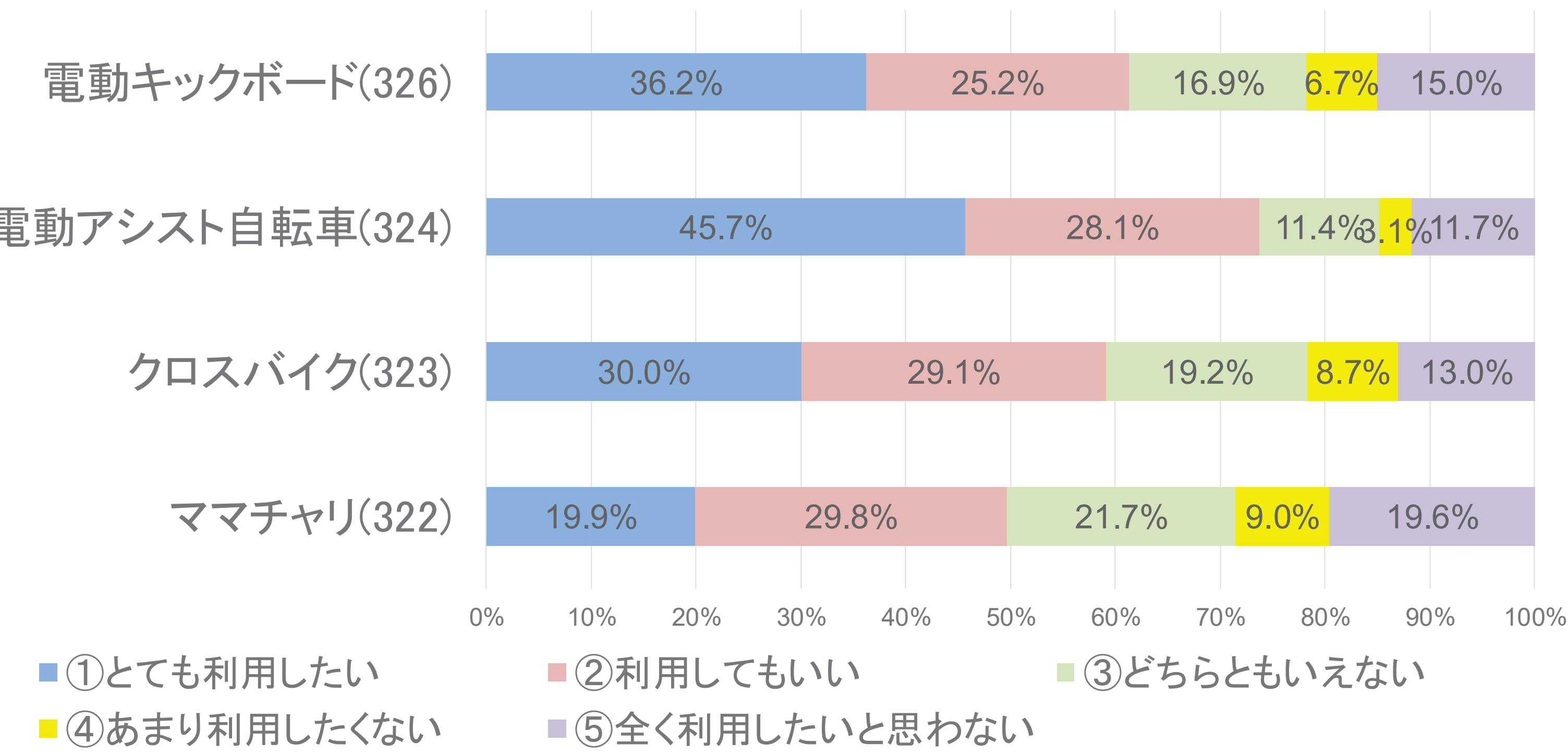


図16: コンパクトモビリティとして利用したい車種

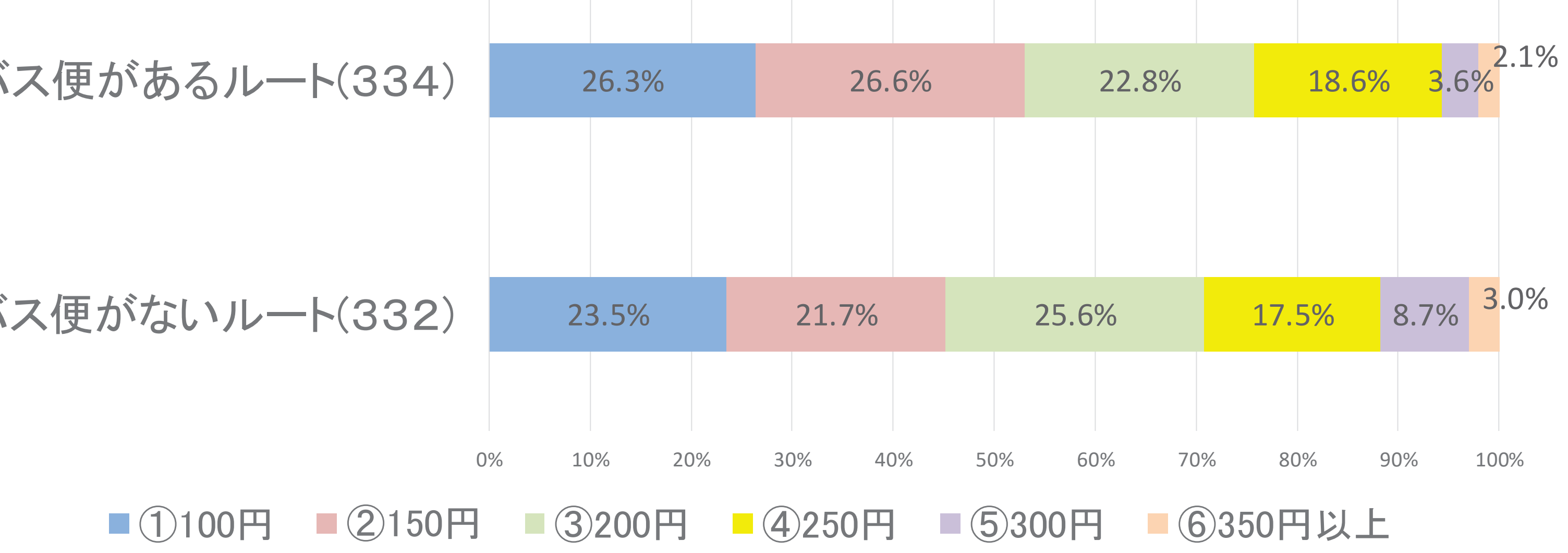


図17: バス便ルートの有無によるコンパクトモビリティ利用時の金額許容

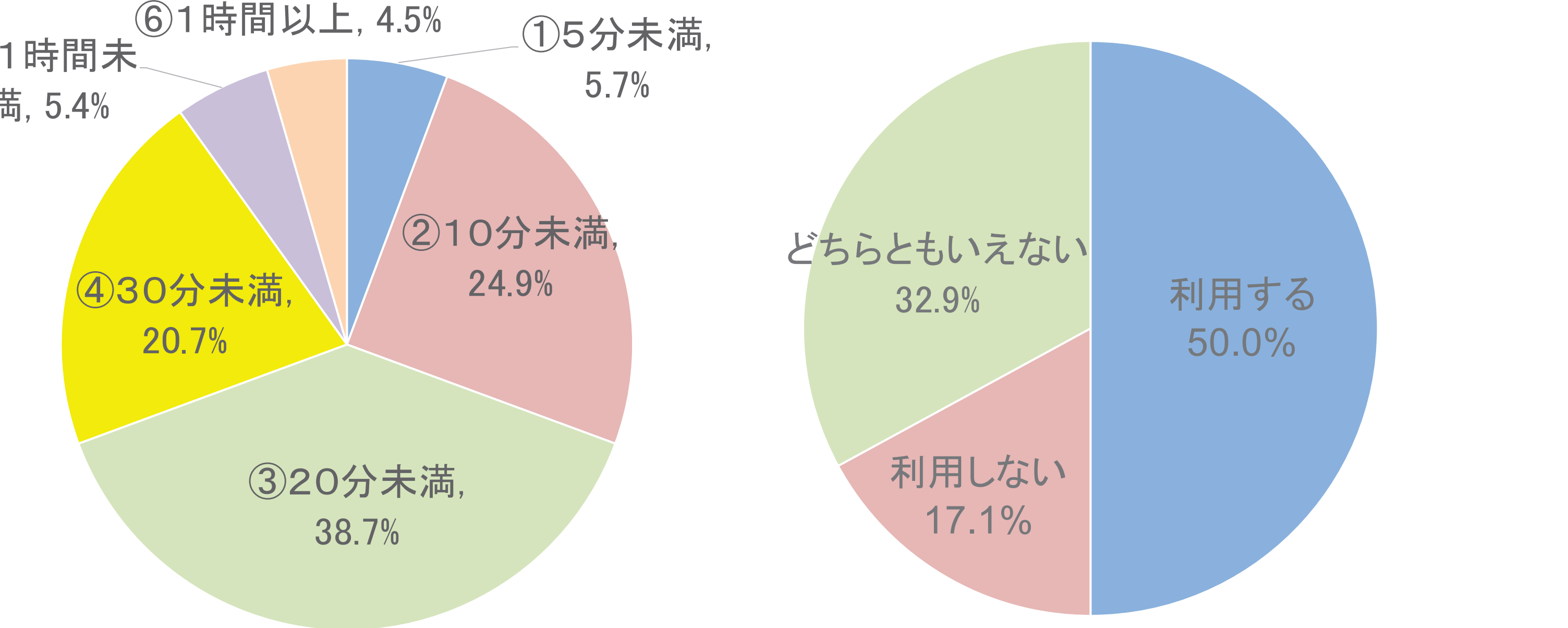


図18: 移動時間の許容範囲

図19: コンパクトモビリティの利用意向

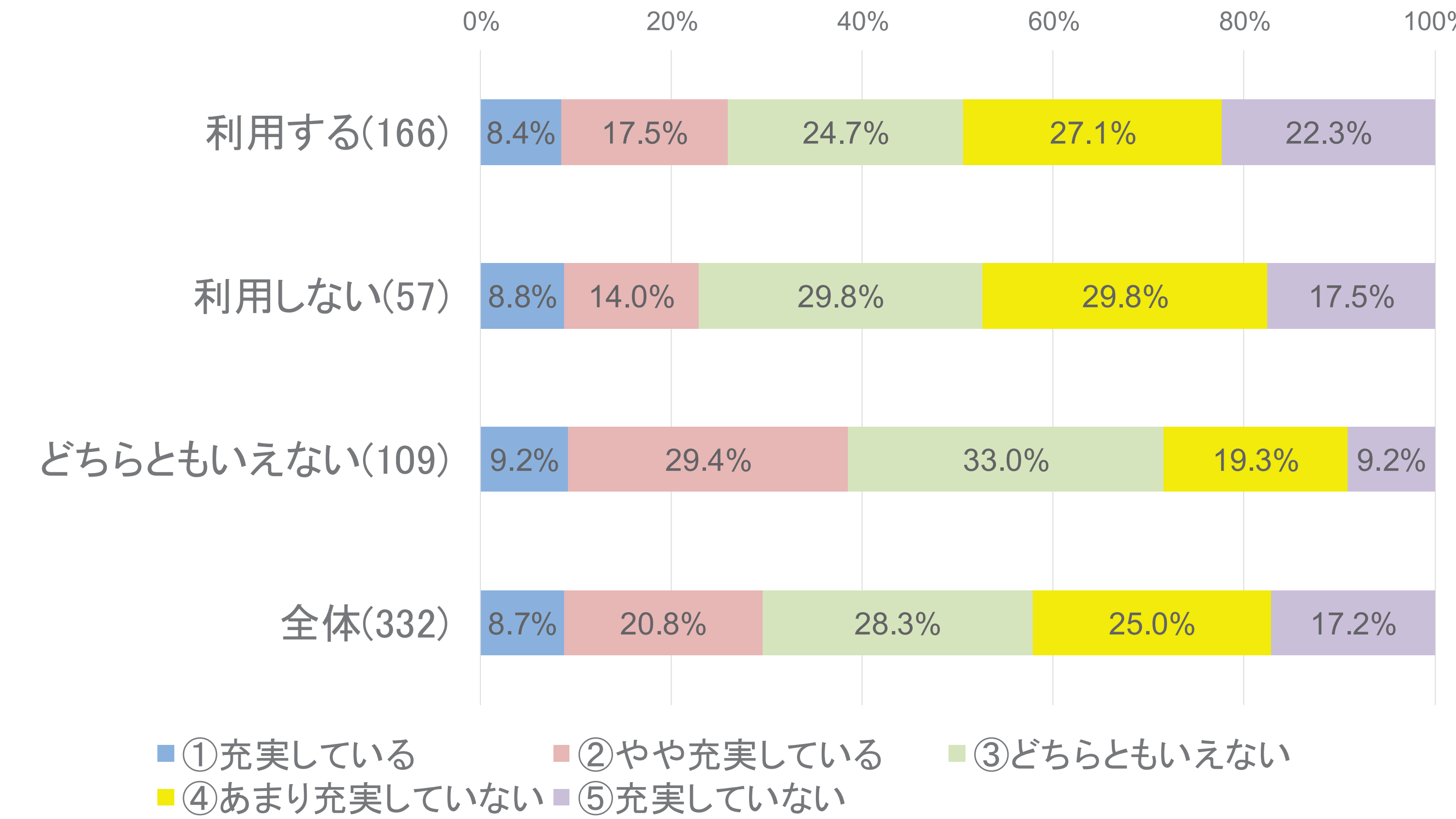


図20: コンパクトモビリティの利用意向と空きコマの充実度の関係

小川真瑠・木戸彩音・林凜乃